



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ゴルト レーベン	階数	地上3F
建設地	横浜市戸塚区戸塚町1756-1	構造	木造
用途地域	第一種低層住居専用地域、市街化区域	平均居住人員	28 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年12月2日
敷地面積	931 m ²	作成者	寺川幸子
建築面積	368 m ²	確認日	2020年12月2日
延床面積	896 m ²	確認者	定森純一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 93%
③上記+②以外の 93%
④上記+ 93%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 高齢者向け優良賃貸住宅の新築工事。		
Q1 室内環境 共用部・住戸部共に高い昼光率を確保。共用部はタイマーによる照明制御を行い、光・視環境へ配慮した計画。	Q2 サービス性能 外壁材、給排水配管材に長寿命のものを選定。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内緑化に努め、建物利用者が自然に親しめる空間を計画。
LR1 エネルギー LED照明設備など、高効率設備の採用により、省エネルギー性に配慮した計画。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った。	LR3 敷地外環境 広告物照明を設置せず、周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



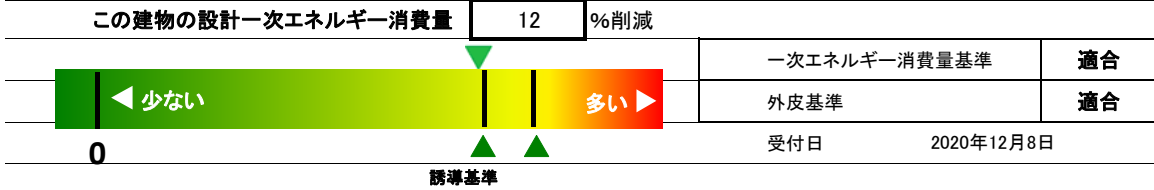
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **ゴルト レーベン**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①断熱等性能等級4

③BEI=0.88

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **4**

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥品確法ホルムアルデヒド対策等級3相当、使用建材全てにF☆☆☆☆を採用

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯耐用年数30年以上の外壁仕上材を採用

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

— — —



CASBEE横浜2017年版v.1.7

ゴルト レーベン

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境										3.2
1 音環境				3.0	0.15	2.8	1.00			2.8
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50			-
1.2 遮音				3.0	0.50	2.6	0.50			-
1	開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30			-
2	界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30			-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	1.0	0.20			-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			-
1.3 吸音				3.0	-	-	-			-
2 温熱環境				2.0	0.35	2.7	1.00			2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50			-
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.63	3.0	0.63			-
2	外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	4.0	0.38			-
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	-	-	-			-
2.2 湿度制御				1.0	0.20	4.0	0.20			-
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30			-
3 光・視環境				3.8	0.25	3.6	1.00			3.6
3.1 屋光利用				4.2	0.30	4.0	0.30			-
1	屋光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.60	5.0	0.50			-
2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30			-
3	屋光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30			-
1	屋光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	4.0	1.00			-
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15			-
3.4 照明制御				5.0	0.25	3.0	0.25			-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00			3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63			-
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00			-
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38			-
1	換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33			-
2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	5.0	0.33			-
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33			-
4.3 運用管理				-	-	-	-			-
1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	-	-			-
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.1
1 機能性				2.4	0.40	3.8	1.00			3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60			-
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-			-
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	5.0	1.00			-
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-			-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40			-
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	0.50			-
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-			-
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1	耐震性	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2	免震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-			-
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-			-
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-			-
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.4	1.00			2.5
3.1 空間のゆとり				-	-	1.8	0.50			-
1	階高のゆとり			3.0	-	1.0	0.60			-
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	3.0	0.40			-
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50			-
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-			-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-			-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-			-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-			-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-			-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-			-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 ゴルト レーベン

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	<非住宅>	<集合住宅>						
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.0	0.20	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	2.0	0.10	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.4	0.50	-	-	-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-
上記以外の重点項目								
<事務所用途>								
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	5.0	-	-	-	-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	4.0	-	-	-	-